

屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

以下は、弊社拠点の神戸市技術基準です。御注意ください。

1 指導の方針

超高層建築物等における火災等の災害が発生した場合、当該建築物等での消火活動、人命救助等の消防活動は困難を極める。これらの消防活動の容易性を確保しておくことは、超高層建築物等の防災性能の向上に資することとなる。

このことから、超高層建築物等においては、その特性から屋上に航空消防活動を確保するための屋上緊急離着陸場等の設置指導を行うものである。

また、併せて震災対策等を踏まえ、防災関係公共機関及び救命救急センターに対しても設置指導を行うものである。

2 用語の定義

- (1) 屋上ヘリポート： 航空法（昭和27年法律第231号。以下「航空法」という。）第38条に基づき、屋上を常時飛行場として使用することを目的として設置許可された場所をいう。
屋上ヘリポートを設置する場合は、航空法により国土交通大臣の許可が必要となるため、関係当局との協議を優先させること。
- (2) 屋上緊急離着陸場： 航空法第81条の2（搜索、救助のための特例）の適用により災害活動に際し、建築物の屋上に緊急用ヘリコプターが離着陸する場所をいう。
- (3) 緊急救助用スペース： 航空法第81条の2（搜索、救助のための特例）の適用により災害活動に際し、建築物の屋上で緊急用ヘリコプターがホバリングする場所をいう。
- (4) 屋上緊急離着陸場等： 火災等の災害時に建築物の屋上等で緊急に航空消防活動を行うためのヘリコプター（以下「緊急用ヘリコプター」という。）が離着陸等できる建築物の屋上施設で屋上ヘリポート、屋上緊急離着陸場、緊急救助用スペースをいう。

- (5) 防災関係公共機関： 震災時に拠点等となる公共機関の施設をいう。
- (6) 進入表面： 航空機の離着陸のために必要な、障害物件のない空間が必要で、このために設けられる勾配を有する想像上の平面をいう。
- (7) 転移表面： 航空機の離着陸、特に着陸に際し、滑走路の中心から逸脱した進入又は進入復行がなされる場合に、設けられる勾配を有する想像上の平面をいう。

3 適用の範囲

第12-1表

建築物	屋上緊急離着陸場等	屋上ヘリポート	屋上緊急離着陸場	緊急救助用スペース
軒の高さが概ね100mを超える建築物		△	○	□
軒の高さが45mを超える建築物		-	△	○
軒の高さが31mを超える建築物		-	-	△
軒の高さが31mを超える防災関係公共機関		△	○	-
医療建築物		△	○	-

- * △：奨励するもの ○：要望するもの
- ：建築計画上、屋上緊急離着陸場を設けることが困難である場合に、指導すること。
- * 医療建築物とは、救命救急センターをはじめとする高度医療施設をいう。



西日本防災システム
NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ



屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

4 設置基準

別記-1「ヘリコプターの屋上緊急離着陸場等に関する条件及び図解」のとおり。

5 設置基準細目

(1) 離着陸帯について

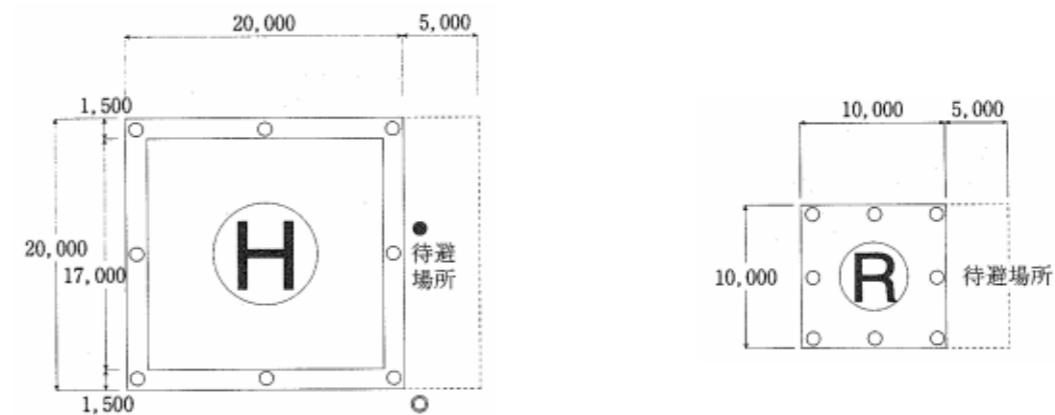
ア 待避場所は屋上緊急離着陸場、緊急救助用スペースに隣接させるものとし、その大きさは第12-1図を標準とする。

イ 待避場所から屋上緊急離着陸場、緊急救助用スペースに至る部分の床にレベル差がある場合は、階段等が設けられ容易に接近できること。

ウ 着陸帯等の大きさの基準（別記-1「緊急離着陸場の着陸帯等の広さ」：参照）に「但し…1辺を15m以上とすることができる。」とあるが、「1辺」とは1方向のみを指するものであり、最小寸法は15m×20mとすること。

エ 屋上緊急着陸場等のうち、緊急用ヘリコプターが離着陸する部分は建築物屋上でのビル風等の影響を考慮し、「プラットフォーム方式（屋上床の上部に離着陸するための床を設け、屋上と床との間に空気の流通する空間を設けたもの）」が望ましいこと。

なお、「プラットフォーム方式」とする場合、グレーチング等上下方向に風の流通する床材料の使用は避けること。



- ：着陸区域境界灯(8個以上 10カンデラ以上)
- ◎：飛行場灯台(閃光型)
- ：着陸区域照明灯
(離着陸帯の中心における法線照度が10ルクス以上)

第12-1図



西日本防災システム

NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ



屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

(2) 脱落防止施設（柵・手すり等）

脱落防止施設が進入表面、転移表面から突出しない位置に設置すること。

ア 屋上緊急離着陸場

(ア) 要救助者、救助隊員の転落防止のため、高さ40cm以上の固定した手すり、柵等を設けること。

(第12-2図参照)

(強度は特に問わないが、ヘリコプターの転落防止が図れるものであること。)

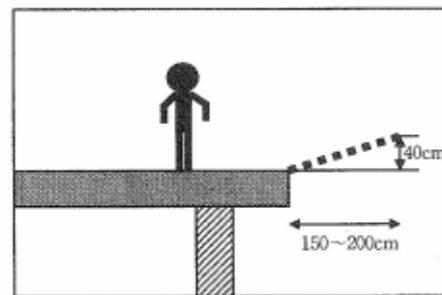
ただし、進入経路の手すり、柵等は、可動とすることができる。

(イ) 離着陸時の一時待避場所が離着陸場と同一面である場合は、待避場所周辺の手すり、柵等は、高さ1.1m以上とすること。

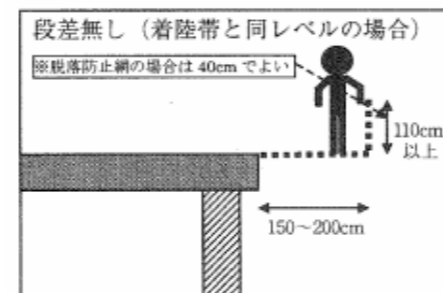
イ 緊急救助用スペース

要救助者の転落防止のため、高さ1.1m以上の手すり、柵等を設けること。

脱落防止施設は建基政令第126条で設置することとなる高さ1.1m以上の手すりでも兼用できること。



【脱落（転落）防止網】



【キャットウォーク型】

第12-2図

(3) 燃料流失防止施設（屋上緊急離着陸場のみ）

ア 「溜めます」による場合

イ 「側溝」による場合

ウ 「屋上部分を利用」する場合

エ 前ア、イ、ウの複合による場合

いずれの場合も300ℓ以上かつ、使用予定のヘリコプターの全燃料量以上溜めることができることとし、最終溜めます等には、堅樋に燃料が流れ込まないように、蓋又はバルブを設けること。（溜めます等が2カ所以上の場合はその合計の容量とする。）

(4) 待避標識について

待避場所には、次の第12-3図の標識を掲げること。

緊急用ヘリコプターが接近した場合には、この場所に待避して下さい。

第12-3図

- ※ ・標識の大きさは1,250mm×350mmとすること。
- ・標識の材質は問わない。（床に直に記載してもよい。）
- ・白地に赤枠とし、文字は赤色とすること。
- ・文字の大きさは75mm角とし、字体は丸ゴシックとすること。
- ・枠、文字の幅については問わない。



西日本防災システム

NISHINOH BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ



屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

(5) 消火設備(屋上緊急離着陸場のみ)

次に掲げる消火設備等を屋上部分に設けること。

- ア 連結送水管 条例第41条の2第4項に基づき放水口を1以上設けることとなるが、この場合、離着帯等の全域を包括することができる長さのホース（結合金具が差込式の呼称50のもの）及び噴霧切替ノズル（呼称50）を格納した格納箱を付置すること。
- イ 移動式粉末消火設備又は車載式大型粉末消火器

(6) 建築物の構造等

ア エレベーターの着床と階段、通路等

医療建築物の屋上に設ける屋上緊急離着陸場は、原則としてエレベーター（非常用エレベーターが望ましい。）が着床するよう、計画すること。

ただし、建築構造上の理由等で、エレベーターの着床が不可能な場合は、当該屋上緊急離着陸場に到る階段、踊り場及び通路は、傷病者を乗せた担架が通行できるよう、1.2m以上の幅員を確保し、階段は、緩やかな勾配とし、らせん階段、回り階段は避けること。

イ 排煙設備

屋上に排煙設備の排煙口を設ける場合は、消火活動及び避難活動に支障とならない位置に設けること。（離着陸帯から10m以上離すこと）

ウ 屋上出入口の確保

- (ア) 階段室の屋上部分には、附室又は前室を設けること。
- (イ) 屋上への出入口に鍵を設ける場合は、建築物の内部及び外部から非常解錠できる装置又は防災センターから遠隔解錠できる装置を設けること。
- (ウ) 前記(イ)の扉の屋内側に「屋上緊急離着陸場」又は「緊急救助用スペース」と表示すること。

(7) その他の事項

- ア 「H」又は「R」の文字の大きさ等については、別図第12-1、第12-2のとおり
矢印は進入方向及び離陸方向に示すこととし、「H」又は「R」の表示方向は、進入方向から認識できる向きとすること。なお、離陸方向と逆方向が進入方向となるものである。
- イ 最大荷重標識については、別図第12-3のとおり
- ウ 離着陸帯の床面強度は、最大積載重量4tのヘリコプターが着陸した場合に耐えうる強度（公共機関・医療機関の屋上ヘリポートについては3.25（それ以外は2.25）倍以上の安全率を見込むこと。）以上とし、その床面許容重量を、黄色の塗料を用い表示すること。
- エ ヘリコプターの進入方向、離陸方向を示す矢印を幅400mm以上で記入すること。
- オ 屋上緊急離着陸場、緊急救助用スペースを設置している直近には、防災センターと連絡できる非常電話を設置すること。
- カ 離着陸帯のライン及び地の色の塗料は蛍光塗料又はトラフィックペイント（ビーズ入り）塗りとすること。
- キ ラインをトラフィックペイントとする場合は、(社)日本塗料工業会（以下「日塗工」という。）の標準色見本帳（2007年版）のD09-50X（番号は2年毎に更新）とする。ただし、蛍光塗料とする場合はイエロー（JIS蛍光黄）でも可とする。また、塗装工程については別表第12-1又は別表第12-2のとおりとすること。
- ク 地の色をトラフィックペイントとする場合は、日塗工の標準色見本帳（2007年版）のD49-40Tとする。ただし、蛍光塗料とする場合はグリーン（JIS蛍光緑）でも可とする。
また、塗装工程については別表第12-1又は別表第12-2のとおりとすること。
- ケ 緊急救助用スペースで床をエキスパンドメタル等とする場合、進入方向等の表示は直接エキスパンドメタル等に塗料等で表示してよい。
- コ 屋上緊急離着陸場等は建築物の避難階段等及び非常用エレベーターと有効に通じていること。
- サ 付加することが望ましい設備として夜間照明等を設ける場合は、航空法の定めるところによることとし、連続4時間以上継続供給可能な非常電源を設けること。（第12-4図）



西日本防災システム
NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ



屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

- (ア) 飛行場灯台…離着陸帯の付近で、進入表面及び転移表面上に突出しない位置（離着陸帯より上方の全方向から視認できる位置が望ましい。）に飛行場灯台等を設置すること。（白色の閃光型〔軽易なもので可〕）
- (イ) 着陸区域境界灯…離着陸帯の境界線上に着陸区域境界灯を等間隔に8個以上設置すること。
- (ウ) 航空障害灯…離着陸帯から10m以内の区域で、進入表面と転移表面のそれぞれの勾配の1/2の表面から突出した避雷針等の夜間視認が困難な物件に航空障害灯を設置すること（蛍光塗料の黄）でも可
- (エ) 着陸区域照明灯…離着陸帯の付近で、進入表面及び転移表面上に突出しない位置に着陸区域照明灯を設置すること（白色不動光型）（屋上緊急離着陸場のみ）

- シ 共同住宅等で、スプリンクラー設備の設置計画がなされていないものにあつては、緊急救助用スペースに準じた救助スペースを確保すること。
- ス 関係者に対して、その設置目的を十分説明し、理解を求めるとともに、将来周辺建築物の状況変化によっては、屋上緊急離着陸場等の基準に適合しなくなることもあることをあらかじめ説明しておくこと。

6 設置届

屋上緊急離着陸場等を設置する場合は、「緊急離着陸場等設置（変更・廃止）届出書」（別記様式1）により消防長に届け出ること（建築同意事務処理規程第27条）。

なお、その届出内容等は次のとおりとする。

(1) 届出内容

当該届出は、屋上緊急離着陸場等の設置者等から建築同意事務処理規程様式第18号の届出書に次の書類を添付すること。

- ア 屋上緊急離着陸場等の位置、構造、設備等の詳細図
- イ 周囲の障害物の有無とその状況図
- ウ 床面強度計算書
- エ 燃料流出防止施設詳細
- オ 脱落転落防止装置詳細
- カ 消火設備等（詳細等については、着工届により代えることができる。）
- キ 付加することが望ましい設備詳細等

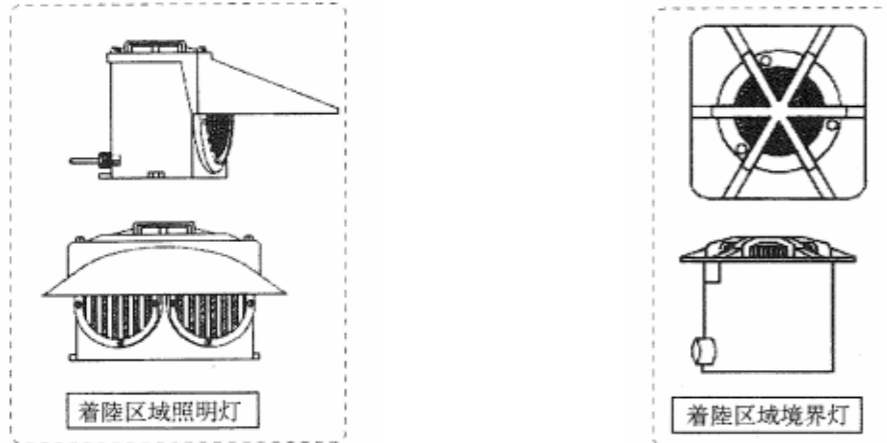
(2) 届出期日

原則として、条例第52条第2項に準じて届出を行う。

なお、廃止の場合においても同様とする。

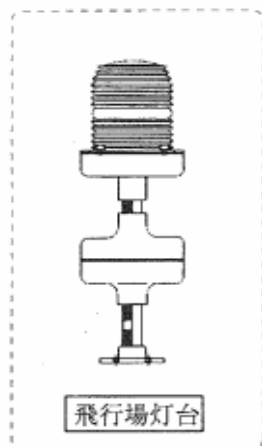
(3) その他

屋上緊急離着陸等の構造・規模等を指導するにあたり、離着陸を行う予定のヘリコプターの機種・型式等も考慮する必要があるため、建築危険物課・所轄消防署、設置者等による事前打合せを十分にを行うこと。



第12-4図

夜間照明等の参考図



西日本防災システム
NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ



屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

施設		屋上緊急離着陸場		
項目	条件	図 解		
離着陸帯	広 さ	原則20×20m以上、但し、進入方向を2方向とした場合で待機場所を別に確保した場合は1辺を15m以上とすることができる。		
	標 識	黄色（夜光塗料等）で着陸帯及びHの標識を表示する。		
	床面強度	使用予定機体の全体重量×3.25（又は2.25倍）許容重量を黄色の夜光塗料等で表示する。		
	床面構造	プラットフォーム式又は通常床式として、床面は滑り防止策を施す。		
	勾 配	最大縦横勾配は2%以下とする。		
進入表面	進入表面	原則として直線の2方向とする。但し進入経路と出発経路が同一方向に設定できない場合は各経路は、90度以上の間隔を設ける。		
	進入区域の長さ及び巾	長さは500m、幅は離着陸帯から500m離れた地点で200m確保する。		
	進入表面の勾 配	5分の1以下として、同表面上に物件等が突出しないこと。		
移 転 表 面	転移表面の勾 配 等	1分の1以下の勾配を有する図に示す表面を確保する。		

別記 1

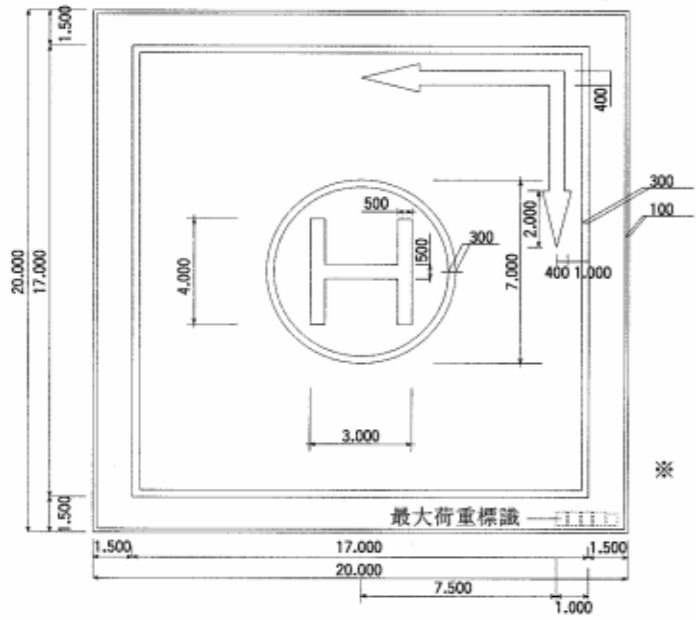
陸場等に関する条件及び図解

緊急救助用スペース	
条 件	図 解
原則10×10m以上	
左記要領によりR標識を表示する。	
通常床強度とする。	
通常床式とする。	
災害活動に影響しない程度の表面であること。	
原則として直線の2方向とする。但し進入経路と出発経路が同一方向に設定できない場合は、各経路は、90度以上の間隔を設ける。	
長さ500m、幅は離着陸地点から500m離れた地点で200m確保する。	
3分の1以下として、同表面上に物件等が突出しないこと。	
1分の1以下の勾配を有する図に示す表面を確保する。但し、上記進入表面及び転移表面がとれない場合は、状況により進入表面及び転移表面を最高5mまで垂直上方に移行できるものとする。	



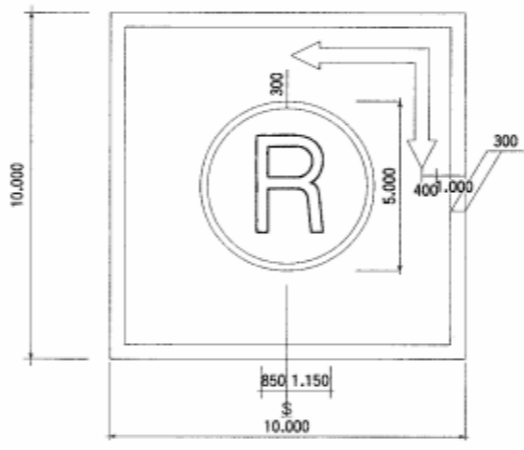
屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

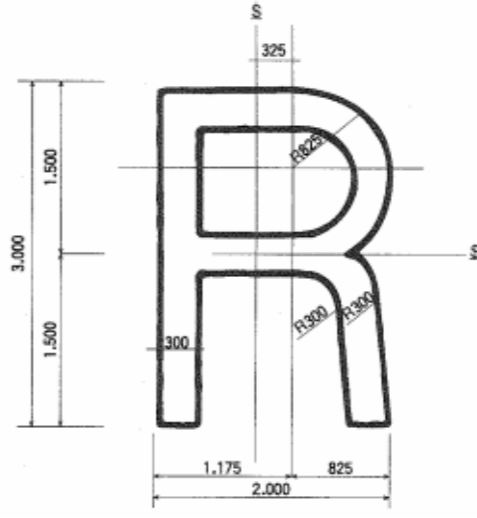


別図第12-1図 屋上緊急離着陸場

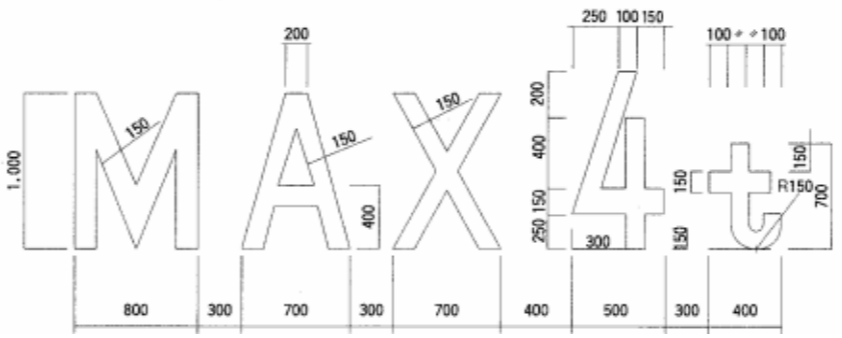
※ ●単位はmmとする。
●矢印は進入方向と離陸方向が同一方向に設定できない場合等、特殊な場合に表示するものとする。



別図第12-2図 屋上緊急救助用スペース



※ ●単位はmmとする。
●矢印は進入方向と離陸方向が同一方向に設定できない場合等、特殊な場合に表示するものとする。



別図第12-3図 最大荷重標識



西日本防災システム
NISHINOH OHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ



別記様式1

緊急離着陸場等設置（変更・廃止）届出書

屋上緊急離着陸場

平成 年 月 日				
神戸市消防長 宛				
届出者 住所		(電話 - -)		
氏名		印		
建築物の名称				
所在地				
設計者 所在地・名称				
施工者 所在地・名称				
建築物の構造 ・規模等	構造		用途	
	建築面積	m ²	延べ面積	m ²
	階数	P H 地上 地下	最高高さ 床面高さ 軒高	m m m
	離着陸帯 の広さ	m × m	着陸帯 の広さ	m × m
	最大 許容荷重	t	種別	1ヘリポート 2緊急離着陸場 3緊急救助用スペース
消防用設備等 (主なもの)				
その他	1 屋外部分に直通する階段の形態及び数等 () 2 屋外部分の非常用EV着床の有無 () 3 屋上部分の扉の解錠方法 ()			
※ 受 付		※ 備 考		

※ 裏面をよく読んで記入してください。

(裏面)

記入方法

- 「届出者」が法人、団体等である場合は、その名称、代表者氏名及び主たる事務所の所在地を記入すること。
- 「最高高さ」及び「軒高」については、それぞれ建築基準法施行令第2条第1項第6号及び第7号に規定された高さを記入すること。
又、「床面高さ」については、地盤面から屋上緊急離着陸場等の床面までの高さを記入すること。
- 屋上ヘリポート及び屋上緊急離着陸場については、着陸帯と離着陸帯の大きさを区別して記入すること。
又、緊急救助用スペースについては、その広さを「離着陸帯の広さ」欄に記入すること。
- 「最大許容荷重」欄については、屋上緊急離着陸場及び屋上ヘリポートについてのみ記入すること。
(使用予定機種の全備重量 × 3.25倍又は2.25倍)
- 「種別」欄については、該当する番号に○印を記入すること。
- 「消防用設備等」欄については、屋上緊急離着陸場等（屋上部分を含む。）に設置されている消防用設備等について記入すること。
- 「その他」欄については、例示している内容の他、特記事項があれば記入すること。
- 上記の他、関係図書として、次に掲げる資料を添付すること。
 - 屋上緊急離着陸場等の位置、構造、設備等の詳細図
 - 周囲の障害物の有無とその状況図
 - 床面強度計算書
 - 燃料流出防止施設詳細
 - 脱落転落防止装置詳細
 - 消火設備等（詳細については別途届け出済みの着工届により代えることができる。）
 - 付加することが望ましい設備詳細、その他
 - 飛行場灯台
 - 着陸区域境界灯
 - 航空障害灯
 - 着陸区域照明灯等
- ※印欄は記入しないこと。



弊社top pageへ



屋上緊急離着陸場等 について - 西日本防災システム

屋上緊急離着陸場

別表第12-1 屋上緊急離着陸場塗装仕様書 その1

■ コンクリート面の場合

工 程	使 用 塗 料 等
1 シーラー	エポキシ樹脂系シーラーを塗装する。
2 下塗り	ウレタン樹脂系塗料（日塗工D22-80X）を塗装する。
2' 下塗り	ウレタン樹脂系塗料（日塗工D37-60T）を塗装する。
3 中塗り 第1層	ウレタン樹脂系蛍光塗料イエローを塗装する。
3' 中塗り 第1層	ウレタン樹脂系蛍光塗料グリーンを塗装する。
4 中塗り 第2層	ウレタン樹脂系蛍光塗料イエローを塗装する。
4' 中塗り 第2層	ウレタン樹脂系蛍光塗料グリーンを塗装する。
5 上塗り	ウレタン樹脂系塗料クリヤー（耐候性増強剤入り）を塗装する。
6 滑り止め	上塗り塗装後、直ちにガラスビーズを散布する。

注意：工程1, 2, 3, 4, 5, 6は認識番号・離着陸帯ライン等の場合
 工程1, 2', 3', 4', 5, 6は、地の色の場合

■ 金属面の場合

別表第12-2 屋上緊急離着陸場塗装仕様書 その2

工 程	使 用 塗 料 等
1 エポキシ樹脂系下塗り	エポキシ樹脂系下塗りを塗装する。
2 下塗り	ウレタン樹脂系塗料（日塗工D22-80X）を塗装する。
2' 下塗り	ウレタン樹脂系塗料（日塗工D37-60T）を塗装する。
3 中塗り 第1層	ウレタン樹脂系蛍光塗料イエローを塗装する。
3' 中塗り 第1層	ウレタン樹脂系蛍光塗料グリーンを塗装する。
4 中塗り 第2層	ウレタン樹脂系蛍光塗料イエローを塗装する。
4' 中塗り 第2層	ウレタン樹脂系蛍光塗料グリーンを塗装する。
5 上塗り	ウレタン樹脂系塗料クリヤー（耐候性増強剤入り）を塗装する。

注意：工程1, 2, 3, 4, 5は認識番号・離着陸帯ライン等の場合
 工程1, 2', 3', 4', 5は、地の色の場合



西日本防災システム
 NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

